

熊本の病院・臨床研修病院、新病院長の紹介

独立行政法人くまもと県北病院

病院長 田宮 貞宏



ルスの発がんや薬剤耐性機構についての研究に従事しました。

平成十九年、公立玉名中央病院に復帰後は縁あって地域における「総合診療」の実践および人材育成を目的として同病院に設置された「熊本大学病院

令和三年十月一日付で玉名市にあり
ます独立行政法人くまもと県北病院病
院長を拝命いたしました田宮貞宏と申し
ます。何卒よろしくお願いいたします。

私は熊本県玉名郡長洲町出身で平成
三年に熊本大学医学部を卒業し、高月
清教授が主宰されておりました第二内
科に入局いたしました。熊本大学病院
熊本赤十字病院および公立玉名中央病
院（当時）での内科系の研修ののち、
平成六年から約十年間は満屋裕明前血
液内科教授、松岡雅雄血液内科教授の
ご指導の下、大学院生や研究員として
第二内科および米国立衛生研究所で
HTLV-1やHIVといったレトロウイ

地域医療支援センター 地域医療・
総合診療実践学寄附講座 玉名教育拠
点」の活動に参加させていただくこと
となりました。拠点での活動は地域の
医療機関や医学生、若手医師にも徐々
に認知されるようになり、地域医療の
場での診療形態としての「総合診療」
はもちろん、医学生や若手医師らが期
待する実践的な医学教育としての「総
合診療」のニーズの高さを実感してお
ります。

くまもと県北病院は、先に述べた公
立玉名中央病院（三百二床）と玉名郡
市医師会立の玉名地域保健医療センター
（百五十床）が統合され、四百二床の

総合病院で繰り返し起こる災害やコロ
ナ禍で社会や人々の不安が高まる中、
令和三年三月一日に開院しました。新
型コロナ感染症対応病床の要請もあり、
残念ながら、これまで一度もフルオー
プンの体制にはできておりません。災
害や病により地域社会が痛手を負う時
こそ、地域の中核病院として医療機能
を堅持しつつ、様々な危機にも臨機応
変に対応することの重要性を痛感して
おります。

これまで経験したことのない高い高
齢化率で複数の慢性疾患を抱え脆弱性
の進んだ方々が多く暮らす地域での医
療を行う上で肥後医育振興会の目的に

掲げられている医学研究、医療の充実、
正しい医療情報の提供といった目標は
地域医療の場にとっても重要事項です。
地域の中核病院として、地域の皆様の
安心・安全を守り、愛する地域の穏や
かな暮らしが世代を越えて受け継がれ
るように、これらの目標を地域でも実
現できるように努力したいと思ってお
ります。また、私自身が熊本の地で皆
様方に支えられ、数々のチャンスを与
えていただけてきたように医療・福祉
の未来の担い手のキャリアアップにも
病院をあげて援助ができればと考えて
おります。引き続き、ご指導ご鞭撻を
よろしくお願い申し上げます。

